

# 長崎県公立高校入試徹底分析【国語】

## 【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	100点
問題構成	大問4題。文学的文章、古文、説明的文章、グラフや資料の読み取りの構成。 [一]は文学的文章32点。出典（『天満つ星』中村汐里）。論述問題は1問、配点は7点。 [二]は古文17点。出典（『古今著聞集』）。論述問題は1問、配点は4点。 [三]は説明的文章31点。出典（『「ふつうの暮らし』を美学する 家から考える「日常美学」』青田麻末）。論述問題は2問、配点は10点。 [四]は資料と会話文の読み取り20点。話し合いの内容と、資料の内容を照らし合わせながら、解答することが求められる。論述問題は1問、配点は12点。		

	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)
問題量（A4で）	8ページ分	8ページ分	8ページ分	8ページ分	8ページ分
小問数	27問	28問	31問	31問	31問
論述問題の数	5問	7問	6問	10問	8問
論述問題配点	33点	36点	30点	41点	35点

## 【出題の傾向と対策】

### ① [一]文学的文章

なぜそのような行動をしたのか、この行動はどのような心情と結びついているのかといった、文学的文章の基本的な問題が出題されている。

#### R7大問一

問三 傍線部②について、なぜさくらはその場から逃げ出したのか。六十字以内で書け。

##### ☞本問で注目すべきところ

①さくらの人物像を把握する ②直前にどのような出来事がおきているかを把握する といった心情把握に必要な要素を読み解く際に整理できているかが図られている点。

##### ☞考え方と傾向

今年の傾向としては、問題間に繋がりが見られる。本文を解く前提として、問二の内容が把握できているかが鍵になる。ぶつ切りにして問題を解くのではなく、全体を把握したうえで問題にあたるようにする必要がある。

### ② [二]古文

本文の横にある現代語訳と、本文の後にある注釈は必ずチェックすること。動作や会話の主語を把握しながら読解することを日頃から心掛ける必要がある。

#### R7 大問二

問三 次の【会話】は、傍線部②について、～話している場面である。【会話】を読んで、後の（1）～（3）について答えよ。

##### ☞本問で注目すべきところ

会話の読み解きと古文内容の理解を同時に求めている点。

##### ☞考え方と傾向

実際の問題は、主語の確定、内容把握を下にした記述であり、それまで独立して出題されていた内容を「見かけを変えて」出題されたものである。難度も高くないので、古文の基礎をしっかりと学習していれば十分に正答できたと思われる。

### ③[三]説明的文章

ときおり難しい語、表現があるが、内容を整理しつつ、重要なポイントを抑えて読むという読み方の基本ができるかが問われている問題。

#### R7 大問三

問四 傍線部②とあるが、筆者が考える「伝統的な美学」における美的経験について説明したものとして適当でないもの次から一つ選び、その記号を書け。

☞本問で注目するべきところ

筆者は「伝統的な美学」と対をなす立場に立っているため、2つの考えを対比し、情報を整理したうえで、解答する点。

☞考え方と傾向

筆者の立場は本文中に登場するハアパラと同じ立場であり、親しさの中に美的経験を見出す立場である。

ただし、本問の質問は「伝統的美学」における美的体験として妥当でないもの、つまり、筆者の立場と同じものを選ぶことになる。問題をしっかりと分析し、問われていることを常に意識して学習することが大切。

### ④[四]資料、会話を読み解き、条件に従い意見を構築する問題が中心。条件に合わせた客観的な記述が求められている。

#### R7 大問四

問三 Aさんたちがよりよい意見を提出するために、今後更に調査を続けるとした場合、その調査対象と調査内容をして適当でないものを次から一つ選び、その記号を書け。

☞本問で注目するべきところ

追加資料として適切なものを把握できるかをはかっている点。

☞考え方と傾向

追加資料を考える前提として、そもそも調査の目的、調査の状況を把握しておく必要がある。その点でいえば、資料・会話全体をしっかりと把握しておく必要がある。資料を集める際に、何が必要かを考えたうえで、行動する習慣をつけておきたい。